〔国際学会印象記〕
第15回European histocompatibility Conferenceに参加して

石谷　昭子

奈良県立医科大学，法医学教室

第15回European histocompatibility Conferenceは欧州のHLA学会であるが，アメリカのそれがASHIと呼ばれるのに対して，こちらはEFI (European Federation for Immunogenetics)と呼ばれ，なにか美しい女性を想像してしまう。この学会は４月27日から30日までの４日間，スペインのグラナダで開催された。グラナダはスペイン南部の，フラメンコの発祥の地とされているアンダルシア地方の一都市である。日本からグラナダへの直行便はないため，マドリッド経由で（闘牛を観てから）列車で５時間ほどかけて，グラナダへ着いた。途中は，ほとんどがオリーブ畑一色で案外単調な車窓であったが，持ち込んだワインとパン，ハム，チーズ，トマトをかじりながら，日頃味わえないようなゆったりとした時を過ごすことが出来た。グラナダは小さな，居心地の良さそうな町であった。学会場のアドレスには全く町名とか番地とかは無く，ただ，“市の中央部にあるPalacio de Congresos”とのみ案内されていて，とても不安であった。しかし駅のタクシーにこれを見せると，全く問題は無く，会場へ，そしてすぐ隣のホテルへと案内された。とてもこじんまりとした町のようだ。

学会は27日の午後3:30に開会され，7:30からフラメンコギターコンサートそしてwelcome receptionが催された。ギターコンサートとあるので，ギターのみかと思っていたら，中頃から，あの，心をしめつけるような歌がはじまり，最後にはダンサーが広い舞台に一人だけ出てきた。あまり飾りのない，赤いドレスをさらっとまとった細身の女性であった。よく目にかかるフラメンコダンサーと較べてとても地味な感じがして，このショーのスポンサーはかなりケチったのかしらと思ってしまった。ところが彼女が踊り始めると，私はその迫力に飲み込まれてしまい，これが本物のフラメンコなのかしらと，もっと見ていたい欲望に駆られていた。そこで早速，翌日，サクラメントの丘にあるジプシーの洞窟様のタブラオにフラメンコを見に行った。そこの踊りはまた，全く違った感じで，でっぷりとした老年の女性から子供までいろんな人の迫力ある踊りではあったが，昨夜の芸術的な踊りを見てしまった後ではあまり感動はおぼえられなかった。後に，グラナダ大学のGarrido教授から，彼の赤いドレスのダンサーはグラナダ大学フラメンコ学部の研究員であったと知らされ，そのような学部があることに，さすがグラナダと驚いてしまった。どうやらフラメンコには２種類あり，素朴なジプシーフラメンコと斬新な現代舞踊としてのフラメンコがあるようである。

さて，長々とノンアカデミックな紹介をしてしまったが，本来の学会の内容についても大まかに紹介しておきたい。口演およびポスターは下記の１２種の項目に分類されていた。

1 Molecular Genetics of the Human MHC
2 HLA polymorphism and typing methods
3 Methodological Aspects
4 HLA structure and gene regulation
5 Evolution and Anthropology
6 Cytokine gene polymorphism and Minor HA
7 Clinical and Experimental transplantation
8 HLA and antigen presentation
9 New genes
10 HLA and diseases
11 HLA and immune escape
12 Others

そして学会のメインイベントとしての招待講演のPlenary sessionが下記の５セッション開かれた。

Ⅰ，Haematopoietic stem cell transplantation and

minimal residual disease

Ⅱ,New functions for non classical MHC class I molecules

Ⅲ, Tumour antigens, MHC molecules and immunotherapy

Ⅳ, MHC Polymorphism and disease

Ⅴ, HLA and phylogeny

Session IIのnon classical MHCのセッションは，共同研究者DE Geraghtyの"Immunobiology of HLA-E,-F and -G: working together to accommodate pregnancy"，P.Perhamの"KIR diversity in the higher Primates"，R.Fauchetの"Modulation of HLA-G expression in monocytes, macrophages and dendritic cells"，CYW Lokeの"Are non-classical HLA class I molecules important for pregnancy"の４演題であった。私は我々の研究の一部がGeraghty により報告されることもあるが，それ以上に，来年の第13回国際組織適合ワークショップのHLA-E,-F,-G component をオーガナイズするようになっていることもあって，最新の動向を知るべくこの学会に参加した（本音はフラメンコの方かもしれないが)。

そしてこのセッションの後，John Hansenから来年の第13回国際組織適合ワークショップについての案内がなされた。

この他にも，教育講演のようなMeet the Professorとして"TCR-HLA-Peptide interactions"と"The human genome project"の２講演とTeaching Sessionとして下記の4 sessionが開かれた。

Ⅰ Statistics and genetics of HLA

Ⅱ High resolution HLA class I DNA typing by SBT and other methods

Ⅲ The use and application of the bone marrow donors worldwide registry"

Ⅳ Screening and crossmaching by flow cytometry and ELISA

29日の夜９時からはDinner partyが催され，途中からグラナダ大学の学生のバンドがこの地域の古式豊かな衣装で出演し，後はそのバンドにあわせてみんなが踊りだした。それは真夜中まで続いたようである。

この学会に参加するのは初めてで知る人もあまりなく（ある人から猪子先生に会ったと聞かされたが，お会いすることは出来なかった)，少しさみしい感はしたが，この町自体はアルハンブラ宮殿，フラメンコショーなどの観光スポットも多く，もっと滞在したくなる所であった。